

桐生市議会 議会運営委員会 行政視察報告書

視察都市 三重県 鳥羽市

視察日時 令和 5 年 11 月 2 日 (木) 10 時 00 分 ～ 11 時 30 分

訪問先 鳥羽市役所
〒517-0011 鳥羽市鳥羽 3-1-1 Tel. 0599-25-1206

参加者 辻正男 渡辺恒 北川久人 久保田裕一
丹羽孝志 河原井始 石渡宏明

視察項目 議会 IT 化の推進について

■ 鳥羽市の概要：

志摩半島北東端に位置し、西を伊勢市、南を志摩市と接する。北と東は海に面し伊勢湾と太平洋を分ける位置にある。気候は温暖で、美しいリアス式海岸が広がっており、市域全体が伊勢志摩国立公園に指定されている。

面積 107.34km²、総人口 16,906 人（2023 年 9 月末日）、8,217 世帯、人口密度 153 人/km² 当年 11 月 1 日を持って市制施行 69 周年となる。

市長：中村欣一郎、議長 河村孝、議員定数：13 名

<https://www.city.toba.mie.jp/index.html>



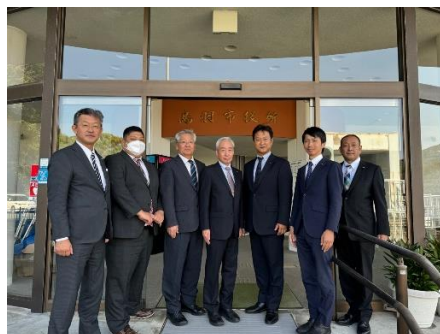
近世以降、志摩国の政治・経済・文化の中心地、鳥羽藩の城下町として発展してきた。明治以降も志摩地方の行政・経済の中心として栄えてきたが、2010年4月1日 過疎地域自立促進特別措置法の適用を受け、「過疎地域」に指定されている。現在は変化に富んだリアス式海岸の海を観光業と水産業の両面に活用。市内には大規模なホテルから小規模の民宿まで多くの宿泊施設が立地している。養殖業ではカキ（浦村かき）や真珠が名産。海の幸としてはこの他、イセエビやアワビ、海苔なども産する。

人口約 17,000 人の小さな自治体ではあるが、年間 350 万人ほどの観光客が訪れる場所である。

■ 視察内容①：「議会 IT 化の推進について」

◎ 面談者：

- 鳥羽市議会 濱口 正久 副議長
- 鳥羽市議会 木下 順一 議選監査委員
- 鳥羽市議会 瀬崎 伸一 議員
- 鳥羽市議会 山本 てつや 議員
- 鳥羽市議会 世古 安秀 議員
- 鳥羽市議会 中村 浩二 議員
- 鳥羽市議会 事務局 平山 次長
- 鳥羽市議会 事務局 岡村 なぎさ 書記



◎ 鳥羽市議会の特徴として、ソーシャルメディアの活用が挙げられる。

- ① X（旧 Twitter）は平成 22 年 2 月から、
- ② YouTube は平成 24 年 3 月から、
- ③ FaceBook は平成 27 年 4 月から、
- ④ LINE は令和 2 年 8 月から、導入済。（平成 22 年 9 月から平成 30 年 9 月までは USTREAM も活用していたが、有償化に伴い廃止）

- ◎ ①③④の投稿方法は担当事務局職員が（決済なし）、投稿の内容は …
 - ・ 会議や行事の日程
 - ・ 議決結果や議案など
 - ・ インターネット放送告知
 - ・ 市議会だより掲載
 - ・ 議会行事

- ◎ ②の放送範囲は本会議・常任委員会・特別委員会・議会運営委員会・全員協議会・その他研修会など、放送の内容は生放送および録画放送

- ◎ また鳥羽市議会のもうひとつの特徴として議会でのタブレット活用、特に議場内パネルとの連携が挙げられる。議場内は無線 LAN 化、46 インチモニターが 2 台導入されており、iPad やパソコンからの表示が可能。パネル取扱い要領の規定に基づき、事前の議長許可を経て一般質問や質疑の場面において、写真やグラフ、インターネット掲載文やホームページ内容などを出席者と共有している。尚、操作は議員が自ら行っている。パネルの使用枚数に制限はなく、但し動画は議事録の関係で認めておらず、静止画にあっても「このとおりです」等で済ませず、内容を細かく説明するようにしている。

- ◎ その他、平成 24 年から会議の開催通知などを郵送や Fax からメール送信に全面切り替え、スケジュール管理・共有のツールとして無料のクラウドサービスであるグーグルドライブを活用して、委員会資料などの共有を行っている。

- ◎ 鳥羽市議会が考える「IT 化推進」にあたっての成功ポイントは以下 3 点
 - ・ 手段を目的化しないこと
 - ・ 使わざるをえない「仕掛け」が必要であること
 - ・ 出来ることから始めること

【事前質疑への回答】

Q タブレット導入までの経緯について

A 平成 23 年までは正副議長室と議会図書館に執行部貸与の旧型 XP の PC を設置。但し庁内 LAN からのインターネット接続であった為、セキュリティポリシー上、私物 USB の使用ができず、実質使われてはいなかった。

平成 23 年、議会フロアを無線 LAN 化。議会費でノートパソコン 3 台と iPad 2 台を購入し議員共有で使用可能とした。但し備品扱いのため外に持ち出すことは禁止。iPad を使って便利だと感じた議員数名から、個人で所持したいとの要望がでてきた。

他議会での状況を調査し、「政務調査費で議員個々が契約」、「全議員所持」という事例を佐賀県議会に確認。この方式をもとに平成 23 年夏以降契約する議員が増加、平成 24 年春に全議員が政務調査費で契約をした。尚、通信費は月額 6,000 円程度、但し私費と 1/2 按分としている。

Q 各種 IT 導入後の効果と課題について

A ・一部ペーパーレス化や郵送代の削減

- ・事前に資料に目を通すことにより、説明の簡素化や質問の深化が可能
- ・会議終了後に紙資料は破棄可能となり、資料保存場所の確保を解消
- ・事務局職員の事務負担軽減

現段階、運用内容は鳥羽市議会にとってベストであり、課題は「なし」。

Q タブレット等の ICT 機器に不慣れな議員への対応について

A 使用方法について不明な点があれば事務局職員に声をかけてもらい、その都度対応中。但し「不慣れ」な状態から脱却するために、「使わざるをえない仕掛け、仕組みづくり」が大事だと考えている。

Q 市当局と議会側は IT 化を通して、どの程度の共有化が図られているのか

A ここ数年で一般質問の際に議場モニターを執行部側の答弁者が使用したり、委員会に出席している執行部（説明員）がタブレットを使用している姿が見られるようになってきた。

Q タブレット使用に係る詳細について

・タブレットの仕様:

- A 事務局側 ① iPad（第 7 世代）16GB、WiFi モデル、
② iPad 16GB WiFi モデル

議員所有 ほとんどが iPad を使用（詳細は把握していない）

・導入費用や月々の費用負担

- A 事務局側 ① 39,600 円
② 22,400 円

議員所有 把握していない

・電子会議システム（ペーパーレス会議ソフト）の仕様

A 導入していない

- ・タブレット端末の貸与及び運用規定の有無

A 事務局に貸出できる端末あり、物品貸出簿に記入してもらい貸出。
運用規定は定めていないが、利用に関するルールはあり。

Q オンライン会議を導入可能とする関係例規等の改正の有無

- ・有の場合はその経過や規程の整備内容
- ・有の場合はその必要経費
- ・有の場合はその開催実績の有無
- ・有の場合はその効果や課題

A 令和4年度に鳥羽市議会委員会条例を改正し、大規模な災害の発生、感染症の蔓延などのやむを得ない理由がある場合、オンラインによる委員会の開催および委員会への参加ができるようになったが、開催の実績はない。条例改正は行ったが、肝心のオンライン会議を実施するための詳細な取り決めがないため、その整備がまず必要な状況。

Q 地方議会初とされる旧 Twitter の活用事例について

A 先述のとおり主な内容は以下。

- ・会議や行事の日程
- ・議決結果や議案など
- ・インターネット放送告知
- ・市議会だより掲載
- ・議会行事

Q 「議会グループウェア」の概要について

A 先述のグーグルドライブの他、令和5年度から LINE WORKS を導入。
トークから事務局⇄議員のコミュニケーションを、カレンダーでは Google カレンダーに入力できない予定を共有。アンケートでは、視察対応や研修等の出欠確認、会議開催日程の調整などを行っている。

Q 試行されているテレビ会議の概要について

A FaceTime を活用している。

Q 議場内モニター・パネルの活用実績について

A 平成24年度に開始して以降、人数にバラつきはあるがほぼ毎回一般質問でモニター（パネル）が使用されている。

【当日質疑への回答】

Q 今後の取組みは？（丹羽委員）

A 今年度に導入をした LINE WORKS が非常に便利で満足している。まだぼんやりとしている感は否めないが、次の課題はやはり「ペーパーレス」か、と捉えている。ただ、小さな地方自治体・市議会にあって、その費用対効果を考えれば必ずしも電子化に向けた一本鎗ばかりが正解ではないとも考えている。予算書や決算書の類は、最後やはり「紙」ベース。検索機能や保管と言う部分で便利なツールがあることは承知しているが、現状で特に困ってはいない為、順次次策を練っていきたいと考えている。

Q 政務活動費は現在どれくらい？按分している事例は他にもあるか？
（北川委員）

A 15万6千円/年。通信費に限らず、通話料や別物では移動のガソリン代なども按分しようと思えばできないものは特にない。オンブズマン等に細かくその詳細を追求されるような事例も起ってはいない。

Q 導入している各種ソーシャルメディアの操作は事務局職員が行っているのか？今後もこうした、なるべく費用のかからないスタイルか？
（久保田委員）

A 事務局職員が操作している。人員配置の異動時に滞りが発生しないような取組みは必要である。普段そこにあるものを議会でも使ってみよう、という考えに過ぎず、実際 LINE WORKS については非常に導入をしてみて良かったと実感している。

Q トラブル事例は何かあるか？

A 生配信中に映像が出ない事態が過去にあった。その為、その際は音声だけでの配信とせざるを得なかった。

Q 著作権に抵触する可能性ある画像の使用可否判断は？（北川委員）

A 事前の議長許可を得る際に、事務局職員もあわせてその内容をチェックしている。

Q 議場内にタブレットを持ち込み使用する際に、キーボード操作音への配慮は何か施されているか？（久保田委員）

A 録音上でのことかと思うが、特に「うるさい」といった指摘はこれまでない。

Q Apple 系や Android 系など機種違いへの対応は？（渡辺委員）

A 対応できるようにコネクタ類を各種取り揃えてある。

Q（IT 化とは関係ないが）真珠議会の開催内容は？（石渡副委員長）

A 6 月定例会は市名産になぞらえ「真珠議会」と位置付け、各議員が真珠製品（真珠は6月の誕生石）を身に付けて議会に出席するなどし、真珠養殖発祥の地をアピールしている。

Q（IT 化とは関係ないが）鳥羽市議会は通年議会と聞いているが？

（辻委員長）

A そのとおり。そのぶん拘束される、専決事項がなくなるといった特徴あり。

■ 視察内容②：議会議事堂

◎ 明るくスッキリとした議事堂内。天井照明を LED 化した効果とのこと。傍聴席は 2 階部分に設けられている。



◎ 議場内は無線 LAN 化、46 インチモニターが 2 台導入されており、iPad やパソコンからの表示が可能。



■ 行政視察 所感:

- ◎ 真田真珠養殖の発祥地ながら、高齢化の進展や主要産業の衰退・低迷など、市を取り巻く現環境には厳しいものがある。過疎地域の指定を受けている点、住みよさ総合ランキング 767 位というポジション（桐生：747 位）からも、桐生市と近似性を多々感じるところがあるが、風光明媚な「自然」という同様の得難いリソースを有するもの同士として、同市の今後の取組みを注視していきたい。
- ◎ その一方で議会運営については、いち早く SNS 活用のツール導入を試み市民に対する「わかりやすい発信」を常に心がけている他、一般質問や質疑にスライドや写真、インターネット画像を議場に設置されたモニターに映し出せるようにする等、機動力に富んだ各種展開を図っており、桐生市としてこうした姿勢と実績から学ばなければならないことは多くあると感じる。

■ 視察成果による当局への提言または要望等:

端的に言えば、鳥羽市議会の IT 化の取組みはその成功に向けた推進ポイントに挙げられている 3 点に尽きる。

1 点目に掲げられている「手段を目的化しない」であるが、現段階でペーパーレス化に繋がっているものはごくわずかであることを認めつつ、「紙をなくすことが目的ではなく、審議がスムーズに運営できるようにするにはどうしたら良いか」、そこに主眼を置いているという明確な意思表示があった。

そうした発想から導入の実現に至った各種ツールは既に世にあるソーシャルメディアの類であり、なんら特別ではない普段日常の場面で使われているこれらいわゆる無料サービスを実に上手に議会運営に落とし込んでいる点、目から鱗の念を抱かざるを得ない。それは即ち 3 点目に掲げられた「出来ることから始める」という考えに基づくものに他ならず、感服するばかりであった。

尚、2 点目に掲げられている「使わざるをえない『仕掛け』が必要」とする点については、もはやあれこれとネガティブな理由付けを付することのない、ある種の「潔さ」すら垣間見え、前に進もうとする行動力のみにあふれた小気味よ

さすら覚えるものである。

無論、世にある無料サービス・ツールはそのセキュリティ観点などからも選択と導入にあたっては慎重なスタディが必要であることは言うまでもないが、肩ひじを張ることなく、そこに便利なサービスがあるのならば、まず活用の余地はないのか？と取り組んでみる柔軟・積極性を見習いたいと思う。

結論、専門のツールは高機能である一方、相応の投資を伴いかつ「使いこなす」ことではじめて費用対効果を十分に発揮するものである。一気に高いハードルのクリアに向けたチャレンジをするのではなく、鳥羽市のスタイルである「できることから始める」の精神を是非参考事例のひとつとすることを強く要望したい。

以上